

① 申請者	姫路市、福崎町、市川町、 神河町、◎朝来市、養父市	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E
③ タイトル			
<p style="text-align: center;">播<sup>ばん</sup>但<sup>たん</sup>貫く、銀の馬車道 鉱石の道 ～ 資源大国日本の記憶をたどる 73km の轍 ～</p>			
④ ストーリーの概要（200字程度）			
<p>兵庫県中央部の播但地域。そこに姫路・飾磨港から生野鉱山へと南北一直線に貫く道があります、“銀の馬車道”です。さらに明延鉱山、中瀬鉱山へと“鉱石の道”が続きます。わが国屈指の鉱山群をめざす全長 73km のこの道は、明治の面影を残す宿場町を経て鉱山まちへ、さらに歩を進めると各鉱山の静謐とした坑道にたどり着きます。</p> <p>近代化の始発点にして、この道の終着点となる鉱山群へと向かう旅は、鉱山まちが放ついぶし銀の景観と生活の今昔に触れることができ、鉱物資源大国日本の記憶へといざないます。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>飾磨津物揚場跡</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>宿場町を通る銀の馬車道</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>現存する馬車道跡</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>明延鉱山の坑道跡</p> </div> </div>			
⑤ 担当者連絡先			
担当者氏名	兵庫県朝来市教育委員会 文化財課参事 (兼 竹田城課保存管理担当課長) 柏原正民		
電 話	079-672-6141	FAX	079-672-3220
E-mail	kashihara-masahito@city.asago.lg.jp		
住 所	〒669-5202 朝来市和田山町東谷 2 1 3 - 1		

### 市町村の位置図（地図等）



＝当該市町の位置

播但地域：

兵庫県の県央部に位置する。姫路から市川沿いに伸びる JR 播但線沿いの地域を指す。

### 構成文化財の位置図（地図等）





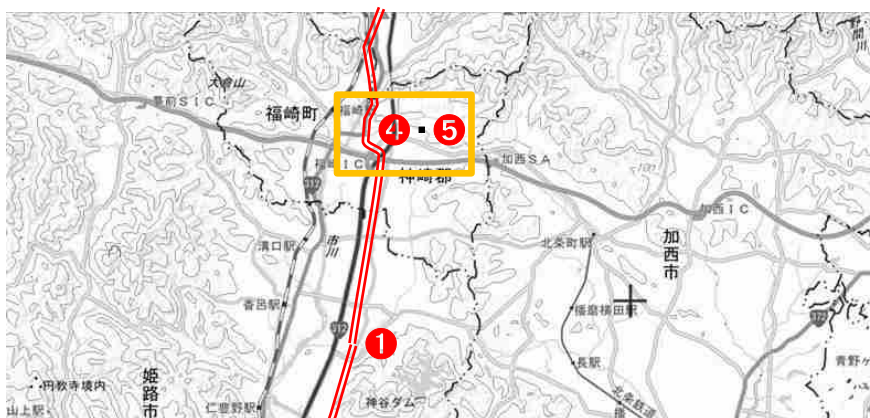
①飾磨（姫路市）



- ①生野鉱山寮馬車道  
(銀の馬車道)
- ②飾磨津物揚場跡
- ③馬車道修築碑



②辻川（福岡町）



- ①生野鉱山寮馬車道  
(銀の馬車道)
- ④辻川町
- ⑤三木家住宅

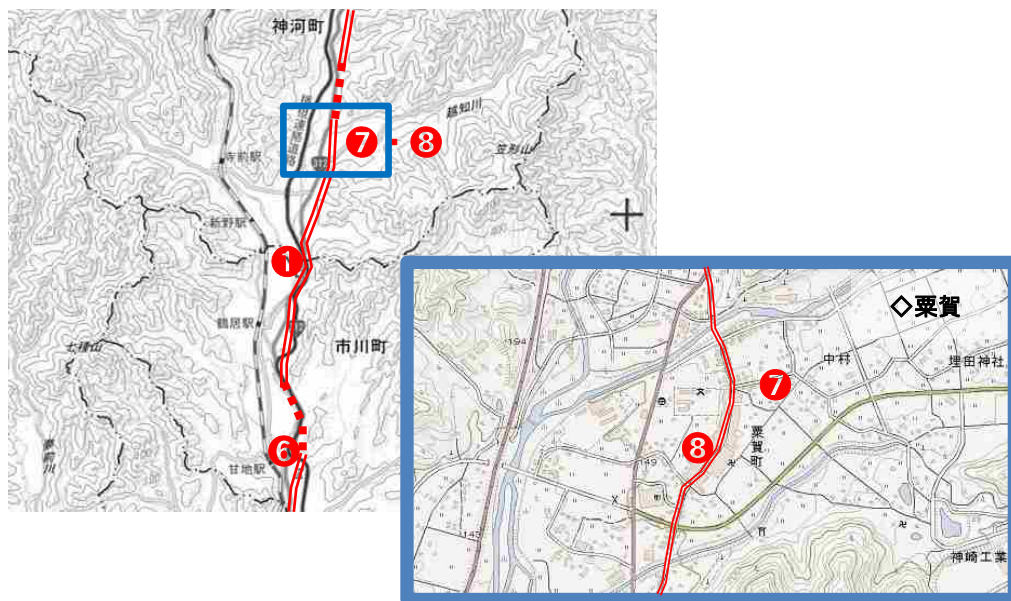


- ④辻川町
- ⑤三木家住宅



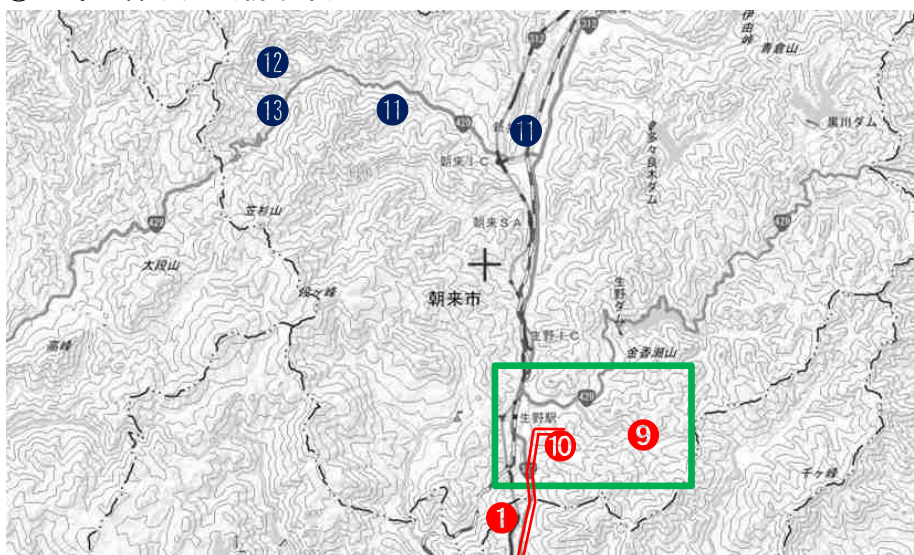
③屋形・栗賀（市川町・神河町）

- ①生野鉱山寮馬車道  
(銀の馬車道)  
⑥屋形町  
⑦栗賀町  
⑧竹内家住宅

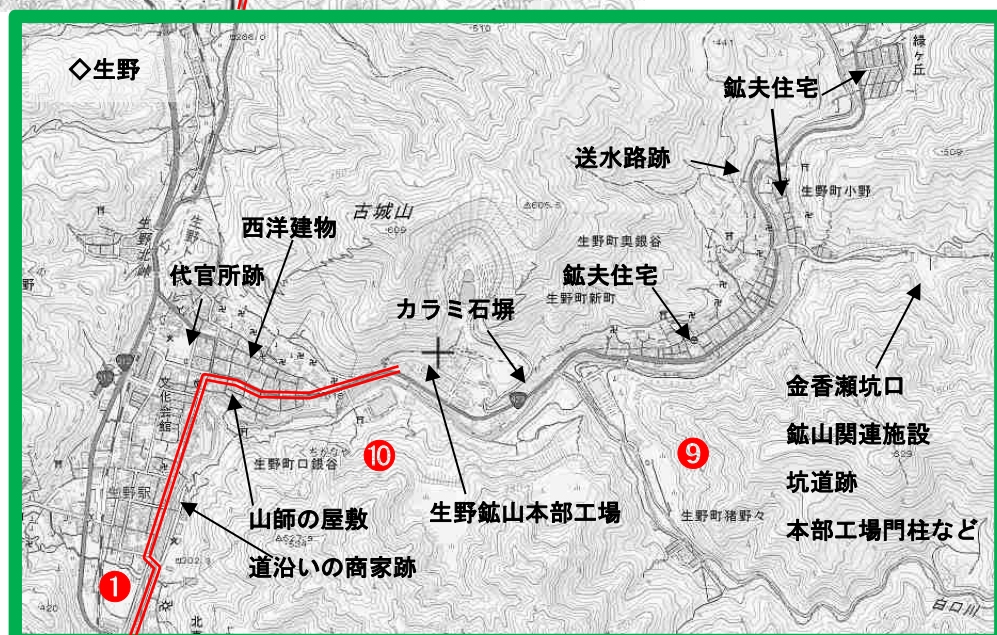


④生野・神子畑（朝来市）

- ① 生野鉾山寮馬車道  
(銀の馬車道)
- ② 生野鉾山関連遺構
- ③ 生野鉾山町
- ④ 神子畑鑄鉄橋 (左)  
羽淵鑄鉄橋 (右)
- ⑤ 神子畑選鉾場跡
- ⑥ 旧神子畑鉾山事務舎  
(ムーセ旧居)



- ①生野鉱山寮馬車道  
(銀の馬車道)  
⑨生野鉱山関連遺構  
⑩生野鉱山町







## ストーリー

### ■ 鉱山が生んだ南北 73km の道

兵庫県の中央部播但（播磨と但馬）地域を南北に貫く、一本の道があります。飾磨港から生野、さらに中瀬に連なる全長 73km のこの道は、鉱産物、採掘・製錬に必要な資材、生活物資を届ける馬車が盛んに行き交いました。

飾磨港から道をたどると、鉱山と共生した宿場町や町家が次々と現れ、経営拠点が置かれた生野には今も稼働する金属工場から操業の音と製錬の匂いが放たれ「鉱山まち」の活気を感じることができます。道は生野から北へとつづき、神子畑・明延・中瀬の鉱山にいたります。想像を絶するほどに地中深く掘られた坑道からは、金・銀・銅を求めた鉱夫たちの息遣いが聞こえてきそうです。

### ■ 瀬戸内の港町から、“銀の馬車道”をゆく

日本初の高速産業道路と言われる“銀の馬車道”は、明治 9 年播磨の飾磨港（現姫路港）と 49km 北の生野鉱山とを結ぶために造られました。建設ルートは最短・平坦を選び取り、重い鉱石に耐え得る画期的な構造を持った馬車専用道でした。

起点となる飾磨港周辺には、生野産のレンガで作られた倉庫「飾磨津物揚場」跡や港湾護岸が残り、馬車道のたたずまいが受け継がれ、その後まさしく真一文字に姫路城に向かいます。

姫路の街を抜け一路北へと進みます。道は田園のなかゆるやかに続き、しばしば趣のある古民家が点在する町並みが現れてきます。それは福崎町辻川、市川町屋形、神河町栗賀の宿場町として栄えた町並みです。辻川には姫路藩の大庄屋を務めた「三木家」、栗賀には毒消しとして盛んに飲まれた仙霊茶を製造・販売したお茶問屋「竹内家」など地域のシンボリックな町家が残し、往時のにぎわいを彷彿とさせます。

### ■ 日本の近代化における原点、「銀のまち一生野」

“銀の馬車道”の一区間が現存する神河町を過ぎ、播但の境をなす生野峠を越えると、清流市川に沿って集落が開けてきます。そこは播磨と但馬を結ぶ交通の要衝であり、開坑から 1200 年の歴史を誇るかつて“佐渡の金・生野の銀”と言われた全国屈指の鉱山まち生野の町です。赤みがかった生野瓦の屋根、格子に意匠を凝らした町家、鉱物製錬後の不用物を石状に固め石垣・土台に使うなど、鉱山まち独特の景観をとどめる口銀谷地区を抜けると、生野鉱山本部の置かれた工場に到着します。

明治政府は、近代化を先導する模範鉱山として、ここ生野を西洋の技術を導入した日本初の官営鉱山としました。



飾磨港の飾磨津物揚場跡



宿場町(栗賀町)を通る銀の馬車道



生野鉱山町のたたずまい



動力の機械化、火薬による採掘、耐えられる坑道、水銀を使った製錬など、全ての技術が当時の日本人が初めて出会う体験でした。この時造られた鉱山本部は、140 年を経て今もなお錫製錬工場として稼働し続けており、活きた音・匂いが鉱山まちであることを強く感じさせます。と同時に明治時代の「西洋技術による鉱山の近代化」を短期間に成し遂げた背景には、現代のものづくりにも通じる営々と築き上げてきた人力主体の手工業的な生産システムが礎としてあったことを気付かせます。

またハード資産だけではなく、鉱夫の滋養のためにと栽培され、今や日本三大ねぎのひとつ「岩津ねぎ」といった鉱山に由来を持つ農産物があり、生活に鉱山の影響がうかがえます。

### ■ 近代化を牽引した軌跡、“鉱石の道”をゆく

生野から分水嶺を越え北へ 24km とつづく“鉱石の道”、“銅の神子畑・明延、金の中瀬”へと歩を進めます。風格ある日本最古の全 鋳鉄製の橋を過ぎ、東洋一の規模を誇った神子畑の鉱石の選鉱場に行き着きます。さらにその先は明延鉱山。総延長 550km にもおよぶ坑道から鉱石を運び出すトロッキ軌道をめぐらせ、地下 1,000m の奥底へとつながっています。暗く冷涼な坑道に足を踏み入れると、岩肌に残る生々しい掘り痕と地下から伝わる冷気で、異空間にいる緊張が高まってきます。町には、共同浴場跡や映画館跡が残り、厳しい暮らしの中での安堵と疲れを癒した様子を感じることができます。

また神子畑と明延間には、鉱石と人を運んだ「明神電車」が走っていました。この電車は一円の運賃だったことから「一元電車」と親しまれ、今に姿を残しています。

飾磨港と生野・神子畑・明延・中瀬の鉱山群を結ぶ“銀の馬車道 鉱石の道”は、明治時代に出現した生産から輸送・物流に及ぶ「海と山を結ぶ鉱業コンビナート」でした。この道には、多く・速く・遠く運ぶための思想と先端技術が詰め込まれ、近代化に舵を切った鉱山経営の仕組みがほぼ完全に残されており、その姿は現在の暮らしを支える「ものづくり」の始まりの様子を示しています。

播但貫く 73km の轍をたどることは、鉱物資源大国たらしめ近代化を推し進めた先人の国際性と革新の気質に触れることであり、金・銀・銅を求め行き交った多様な人の交流から生まれた多彩な生活に出会うこと。そしてこれらが、脈々と現代に連なり強く息づいていることを体感する旅と言えます。



明治の製錬関連施設



生野鉱山の坑道



岩津ねぎ畑



神子畑鋳鉄橋



明延鉱山(一元電車軌道跡)

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
①	いくのこうざんりょう 生野鉱山寮 ばしゃみち 馬車道跡	未指定	生野・姫路間 49km を最短で結ぶ日本初の産業専用道路として、明治 9 年 (1876) に完成。「銀の馬車道」として親しまれている。	朝来市・神河町・市川町・福崎町・姫路市
②	しかまつものあげばあと 飾磨津物揚場跡	未指定	銀の馬車道の発着点で、生野鉱山の物資を専用に扱う貨物港。馬車道に伴って造られ、レンガ製倉庫や港湾護岸が残る。	姫路市
③	ばしゃみちしゅうちく ひ 馬車道修築碑	未指定	明治 9 年 (1876) の銀の馬車道完成を記念して建てられた。道を造る経緯や意義、経過が記され、困難であった工事の様子が克明にわかる。	姫路市
④	つじかわまち 辻川町	未指定	銀の馬車道沿いにある宿場町。東西南北の街道が交差する地点で、馬車道の物資中継の拠点となった。	福崎町
⑤	みきけじゅうたく 三木家住宅	県有形	辻川町を治めた大庄屋の屋敷跡。江戸時代中～末期に造られたが、銀の馬車道建設にあたって宿場町の中央を道が通るように、屋敷地の一部を供出した。	福崎町
⑥	やかたまち 屋形町	未指定	銀の馬車道沿いの宿場町。江戸時代からの宿場町で、当初計画では馬車道のルートからは外れていたが、嘆願書を提出して道が通った。	市川町
⑦	あわがまち 栗賀町	未指定	銀の馬車道沿いの宿場町。生野の玄関口として、鉱山に必要な物資を揃える搬入基地の役割を担った。	神河町
⑧	たけうちけじゅうたく 竹内家住宅	未指定	栗賀町にあるお茶問屋の邸宅跡。日本茶は生野で需要が高く、製造販売した「仙霊茶」は良質の茶として広く知られた。	神河町
⑨	いくのこうざんかんれんいこう 生野鉱山関連遺構 (生野鉱山及び鉱山町の文化的景観)	国選定重要 文化的景観	明治元年に政府の直轄となり、最新技術が投入された日本の近代鉱山第 1 号。 銀の馬車道の終着点で、近代化に伴う資産がまちのあちこちに残り、明治に造られた製錬工場が現役で稼働している。	朝来市



⑩	いくのこうざんまち 生野鉦山町 (生野鉦山及び鉦山 町の文化的景観)	国選定重要 文化的景観	採掘に関連する役人や商人、鉦夫が生活 した鉦山町。屋根に生野で作られた赤瓦を 葺き、基礎や塀に製錬後の不用物を方形に 固めた「カラミ石」を用いた建物が、独特 の風景を形成している。	朝来市
⑪	みこばたちゅうてつきょう 神子畑 鑄 鉄 橋 はぶちゅうてつきょう ・ 羽淵 鑄 鉄 橋	国重文 (有形)  県有形	生野と神子畑鉦山を結ぶ鉦石の道に架 けられた鉄橋。神子畑鑄鉄橋は全鑄鉄製の 橋梁として日本最古。羽淵鑄鉄橋は二連ア ーチ橋で、神子畑鑄鉄橋と様相が異なる。	朝来市
⑫	みこばせんこうじょう 神子畑選鉦 場跡	未指定	もとは鉦山で、大正 6 年(1917)からは、 明延の鉦石を選別する施設が置かれた。斜 面を利用して流れ作業で選別した。	朝来市
⑬	きゅうみこばたこうざんじむしや 旧神子畑鉦山事務舎 (ムーセ旧居)	県有形	生野鉦山に招かれた外国人技師の官舎 として建てられ、その後神子畑に移築さ れ、鉦山事務所として利用された。	朝来市
⑭	あけのべこうざんめいしんでんしゃ 明延鉦山明神電車	市有形	明延鉦山と神子畑を結ぶ鉦山鉄道。昭和 20 年(1945)から客車が運行され、運賃 から「一元電車」の愛称で有名になった。	朝来市・養 父市
⑮	あけのべこうざんかんれんいこう 明延鉦山関連遺構 あけのべこうざんまち ・ 明延鉦山町	未指定	錫・銀・銅を採掘した鉦山で、採掘を休 止している今も、盛んな採掘で掘られた坑 道跡が多数残る。 ふもとには鉦夫社宅、銭湯跡、映画館跡 など鉦山関係者の暮らした町並みが残る。	養父市
⑯	なかぜこうざんかんれんいこう 中瀬鉦山関連遺構 こうざんまち ・ 中瀬鉦山町	未指定	西日本最大の金山。明治時代、生野鉦山 とともに官営化され、現在も鉦山関連の工 場が稼働し、鉦山に関わる町並みが残る。	養父市

(※ 1) 文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。

(※ 2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること(例：国史跡、国重文(工芸品)、県史跡、  
県有形、市無形等)。

(※ 3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること(単に文化財の説明になら  
ないように注意すること)。

(※ 4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること(複数の都道府県にまた  
がる場合は都道府県名もあわせて記載すること)。

## 構成文化財の写真一覧①



① 生野鉾山寮馬車道跡（姫路市）



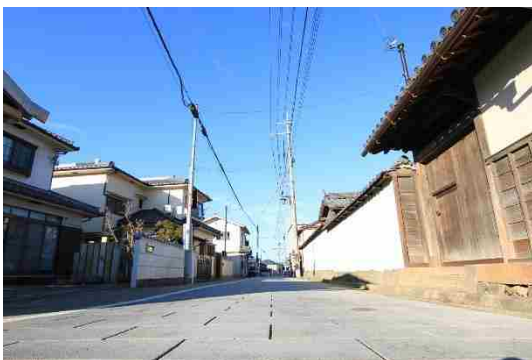
① 生野鉾山寮馬車道跡（神河町）



② 飾磨津物揚場跡（レンガ建物）



③ 馬車道修築碑



④ 辻川町



⑤ 三木家住宅



## 構成文化財の写真一覧②



⑥屋形町



⑦栗賀町



⑧竹内家住宅



⑨生野鉱山関連遺構（生野鉱山正門門柱）



⑨生野鉱山関連遺構（トロッコ道）



⑨生野鉱山関連遺構（金香瀬坑口）

構成文化財の写真一覧③



⑨生野鉱山関連遺構（鉱山本部全景）



⑩生野鉱山町（カラム石の石垣）



⑩生野鉱山町（西洋建築の旧生野警察署）



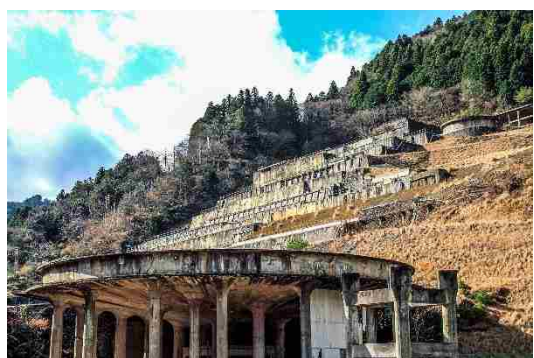
## 構成文化財の写真一覧④



⑪ 神子畑鑄鉄橋



⑪ 羽淵鑄鉄橋



⑫ 神子畑選鉱場跡



⑬ 旧神子畑鉱山事務舎（ムーセ旧居）



⑭ 明延鉱山明神電車（客車くろがね号）



⑮ 明延鉱山関連遺構（体験坑道）



⑮ 明延鉱山町（北星社宅）



⑯ 中瀬鉱山関連遺構（坑道の入り口）